

第一学年総合カリキュラム「多様性とのであい」

First Grade Comprehensive Curriculum "Encounters with Diversity"

1 学年 佐藤吉高 有友愛子 松本純一 林多恵子
 SATO Yoshitaka ARITOMO Aiko MATSUMOTO Junichi HAYASHI Taeko

要 旨

本学年では、『継(つなぐ)～自分―他者―社会の輪を未来へつなぐ』の学年目標のもと、第一学年では重点目標である「出会う:つながりを創る・広げる」をもとに学年の活動に取り組んだ。後期の総合カリキュラムで行った「多様性とのであい」では、それぞれの講師の先生方からの学びをもとに、生徒一人一人が考えた①一番心に残った総カリの授業での「であい」、②私が見つけた新しい「であい」、③多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう?の内容をラウンドテーブル形式で共有し、グループごとに多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事について考えた。それぞれのグループ考えた多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事のキーワードとして、「相手のことを考える」「理解し尊重する」「お互いのことを認め合い、発信する」「新しいものに積極的に触れていく、受け入れる、快いコミュニケーションのとり方」等があげられた。

第一学年での学習を踏まえ、第二学年では、重点目標である「見つめる:つながりを深める・強める」を意識させ、「トレードオフ(二律背反)」の概念を生徒に示し、一方を追求するともう一方を犠牲にしなければならないために起きる問題にも目を向けさせながら「自然との共生」「ダイバーシティ&インクルージョン」などをテーマとしながら共生について考えさせたい。

キーワード : 総合的な学習の時間、多様性、共生

I はじめに

1. 学年目標と総合カリキュラム

本学年では、『継(つなぐ)～自分―他者―社会の輪を未来へつなぐ』を学年目標とし、第一学年では重点目標である「出会う:つながりを創る・広げる」をもとに学年の活動に取り組んだ。

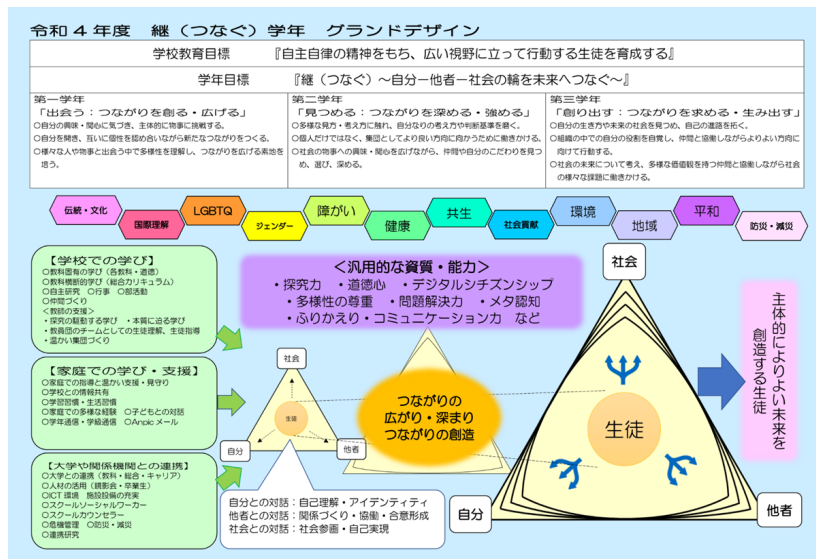


図1 令和4年度 継(つなぐ)学年 グランドデザイン

第一学年前期の総合カリキュラムでは、6月の宿泊学習と9月の生徒祭を関連付けた学習を行い、後期の「多様性とのであい」の学習につなげていくことにした。

6月の宿泊学習「グローバルキャンプ」では、以下のねらいのもと、外国人講師との関わりを通して社会(文化・人間)の多様性について考える機会を得た。

- (1) 異文化体験を通して、社会(文化・人間)の多様性に気づき、グローバルな視点を身につける。
- (2) 英語に親しみ、外国語を学ぶ楽しさを体験し、英語学習の意欲を高める。
- (3) 中学校で初めての宿泊行事を通じて、集団生活の基礎を身につけ、自主自律の精神を学ぶ。

9月の生徒祭では、グローバルキャンプでの出会いをつなげ、広げることをねらいとして、展示(ポスター)と伝えるツールを作成して、生徒祭でクラス単位での発表を行った。自分たちが感じた出会いについて発信することで、グローバルキャンプでの出会いから、世界とのつながりに目を向け、多様な文化との出会いに着目し、深め、広げながら、後期の総合カリキュラムでの「多様性とのであい」の学習につなげられるよう展開した。

第一学年後期の「多様性とのであい」の学習では、様々な人や物事と出会う中で多様性を理解し、つながりを広げる素地を培うことができるよう、継(つなぐ)学年グランドデザイン(図1)に示した、LGBTQ・ジェンダー・障がい・共生・社会貢献・防災・減災等のキーワードにつながる講師の方からの学びの場を設けた。生徒自身が考えを深めていけるよう、ワンページポートフォリオシート(OPPシート)の活用や講師の先生方を招いた学びの共有の場としてのラウンドテーブルを実施した。

2. 学習内容

「多様性とのであい」の学習は、表1に示した内容で行った。

表1「多様性とのであい」学習内容

日付	授業名
10/7(金)⑤	ちがいのちがい
10/7(金)⑥	「ちがい」を受け入れあうための「様々な配慮」を見つけよう！
11/4(金)⑤⑥	多様性とのであい～特別支援学校の先生方から学ぶ～ <u>1年生の総合カリキュラムで筑波大学特別支援教育連携推進グループの先生方をお招きしました お茶の水女子大学附属中学校</u>
11/17(木)	ジェンダー平等について考えよう <u>「女の子だから」はねのけて ツイートもとに中学生へジェンダー授業 朝日新聞デジタル</u>
11/18(金)⑤⑥	多様性とのであい～ちがいにリスペクト～ <u>1年生の総合カリキュラムで株式会社ヘラルボニーの方をお招きしました お茶の水女子大学附属中学校</u>
12/2(金)⑤⑥	多様性とのであい ～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～ <u>1年生の総合カリキュラムで多様な性を考える授業を行いました お茶の水女子大学附属中学校</u>
12/7(水)⑥	「伝える」について考えよう[道徳]
12/9(金)⑤⑥	多様性とのであい ～デフワールドによろこそ！～ <u>1年生の総合カリキュラムで手話エンターテイナーの方をお招きしました お茶の水</u>

	女子大学附属中学校
12/16(金)⑤⑥	多様性とのであい ～避難所での暮らしをよりよくなる工夫～ 1年生の総合カリキュラムで避難所での暮らしをよりよくなる工夫を考えました お茶の水女子大学附属中学校
12/23(金)③	「多様性とのであい」振り返り
2/17(金)⑤⑥	「多様性とのであい」まとめ・共有

講師を招いた授業を軸に、導入として「ちがい」とは何かについて考えたり、大学構内で「ちがい」を受け入れあうための様々な配慮を探したりした。また、講師を招いた授業での学びを広げていくために多様な人が共に過ごす場をよりよくなる工夫を考える学習を設定した。

講師には、これまでも本校の第一学年の総合カリキュラムの講師を依頼している、筑波大学附属特別支援教育連携推進グループの先生方や認定特定非営利活動法人ReBitさんの他、生徒が自分を開き、互いが個性を認め合いながら新たなつながりをつくっていくことにつなげることを念頭に置いて学年で検討し、依頼した。

3. 学びのあしあとと共有

生徒が主体的によりよい未来を創造する姿につなげるため、生徒自身が考えを深めていけるよう、ワンページポートフォリオシート(OPPシート)の活用や講師の先生方を招いた学びの共有の場としてのラウンドテーブルを実施した。ラウンドテーブルでは、一人一人が自分の学びを整理した「多様性とのであい まとめ」スライドを用いて行った。

(1) ワンページポートフォリオシート (OPPシート)

「多様性とのであい」のそれぞれの授業では、資料やワークシートを配布し学習に活用したが、毎回の学びのまとめを図2に示したワンページポートフォリオシート(以下、OPPシート)として一枚の用紙に集約した。

このOPPシートには、授業を通してそれぞれの生徒がであった、新しい「考え方・価値観・気づき」を整理する。OPPシートのパズルの一コマに、その授業の学びを振り返って自分でタイトルをつける。「○○○とのであい」の○○○の部分に、自分がであった考え方や価値観、気づきを象徴する言葉や文を入れ込んでタイトルにする。タイトルをつけた後は、その回の授業で学んだ内容を、タイトルに沿って整理していく。自分がどのような学びを得たのかじっくりと省察し、まとめさせた。

OPPシートのパズルには、学校での学びを自分の生活に広げながら考えていけるよう、「多様性とのであい」の学びを踏まえて、生徒自身が日常の生活の中でであった多様な価値観や気づきを一つ選んで記入する一コマを用意した。

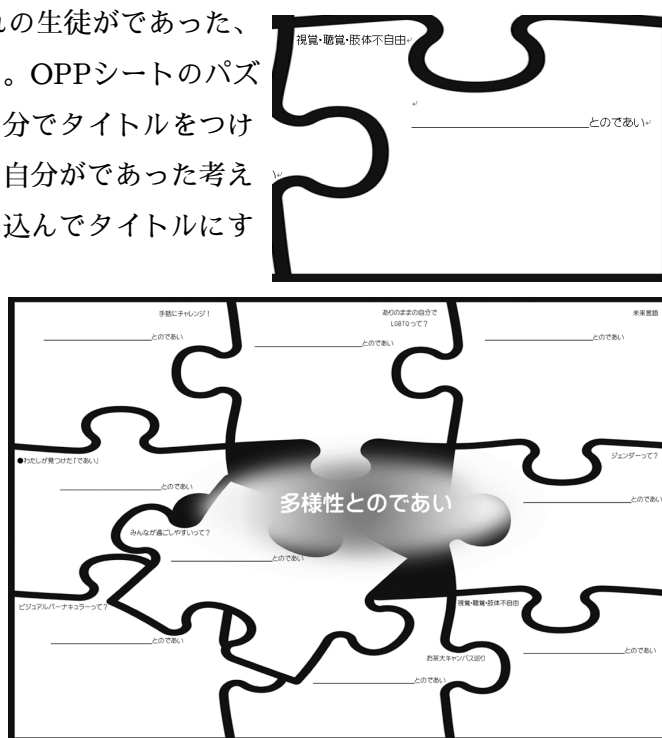


図2 ワンページポートフォリオシート

(2) 「多様性とのであいまとめ」スライド

毎回の学びを整理したOPPシートをもとに、生徒一人一人の考えを「多様性とのであいまとめ」スライド(Googleスライド)にまとめた。その内容は以下の通りである。

- ①一番心に残った総カリの授業での「であい」
- ②私が見つけた新しい「であい」
- ③多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？(個人)

ラウンドテーブルで、お互いの考えを共有した上で、最終的にグループ(生活班)ごとに「多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？」について意見を出し合い、「多様性とのであいまとめ」スライドに整理した。各クラス、それぞれのグループ(生活班)のスライドは、Googleサイトに集約したり、プリントアウトして廊下に掲示したりして、お互いの考えを学年全員が共有できるようにした。

II 学習の様子

1. 講師の先生方とのであい

(1) 多様性とのであい～特別支援学校の先生方から学ぶ～

様々な人たちが一緒にこの世界で暮らしているという多様性への理解を深め、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害について体験を通して生まれた気づきや感情をできるだけ最大化するよう学びを深めることをねらいとした。筑波大学特別支援教育連携推進グループの先生方を講師にお招きし、視覚・聴覚・肢体不自由それぞれの特別支援学校の学校生活の様子や視覚・聴覚障害や肢体不自由について体験を通して教えていただいた。これから多様性について考えるきっかけになるさまざまなであいがそれぞれあった様子が見られた。



(2) 多様性とのであい～ちがいにリスペクト～

福祉を起点に新たな文化の創造を目指す株式会社ヘラルボニーの方をお招きし、「ちがいにリスペクト」をテーマにした授業を行った。

講演では、企業・自治体・団体・個人の抱える議題に対して、福祉を軸としたアプローチについて教えていただいた。『未来言語』のワークショップでは、すべての人をつなぐ、未来につながるコミュニケーションについて考えた。グループごとにさまざまなアイデアでコミュニケーションにチャレンジする様子が見られた。仲間ひとりひとりの価値観や意見の違いを認め、その違いをチームの強みに変えられる仲間づくりにつなげるきっかけにつなげる様子も見られた。



(3) 多様性とのであい ～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～

認定特定非営利活動法人ReBitとスターバックスコーヒージャパン株式会社の協働授業「レインボー学校プロジェクト」として講師をお招きして「多様な性ってなんだろう？」の授業を行った。

LGBTQをはじめとする多様な性を通して、「ふつう」や「あたりまえ」を問い直し、多様な「ちがひ」をその人らしさと捉え、全ての人が自分らしく生きることについて、講師の先生のお話を聴きながらじっくり考える様子うかがえた。質疑応答の時間では活発に質問が出され、様々な疑問点について理解を深めることができた。



(4) 多様性とのであい ～デフワールドによろこそ！～

手話エンターテイナーの那須映里さんを講師にお招きし、「デフワールドによろこそ！」をテーマに、那須さんのさまざまな経験を生徒に伝えていただいた。ろう者と聴者が対等な関係になり、協働して社会をつくっていくことの大切さについて深く考える様子が見られた。



この授業に向けて、道徳の時間に「伝えるを考える」をテーマに、手話を題材とした道徳を行った。NHK for School『手話シャワー』などの動画を視聴しながら、相手に伝えるために大切な事を考える様子うかがえた。筑波大学附属特別支援学校の先生との授業も生かされていた。



(5) 多様性とのであい ～避難所での暮らしをよりよくする工夫～

株式会社三和製作所の方を講師にお招きし、これまでの「多様性とのであい」で学習したことを振り返りながら、さまざまな情報を活用して多様な人が共に過ごす避難所での暮らしをよりよくするための解決策や改善策を考える活動に取り組んだ。

避難スペースのブースを作って過ごし方を考え、避難所での暮らしに役立つさまざまなアイテムを紹介していただくことができた。グループごとに避難スペースで過ごす人の立場に立って意見を出し合いながら工夫を凝らす様子が見られた。



2. 生徒それぞれのであい

「多様性とのであい」の学習として様々な講師の先生方からの学びをもとに生徒それぞれが新しい「であい」を見つけ、OPPシートとスライドに整理した。その新しいであいのキーワードは以下の通りである。

人種差別とのであい／海外から来た友人との出会い／外国の方や他言語とのであい／伝えることの大切さとのであい／セクシュアリティとのであい／点字ブロックとの出会い／ART DEALERとのであい／障害者と健常者の関わりとの出会い／色々な考え方との出会い／不自由なときの優しさとのであい／人は見かけで判断できないこととの出会い／たくさんの出来事／違う文化との出会い／不自由さとの出会い／防災グッズとの出会い／ろう者の世界とのであい／障がいをもっている人・高齢者との関わり方との出会い／過ごしやすい環境との出会い／外国の方との出会い／年の離れた人物とのであい／「みんな一緒にやること」との出会い／様々な国の人々とのであい／他の人の考えを認めることとの出会い／言語が異なる方とのであい／多様性との出会い／全員の個性を受け入れる考え方とのであい／障がいのある方のためのバリアフリーとの出会い／先祖の思いを受け継ぐであい／友達との出会い／「【協力・助け合い】の大切さ」とのであい／様々な家庭／誰もが過ごしやすい社会とのであい／世界と日本の違いとのであい／「助けることの難しさ」との出会い／可哀そうという空気の中過ごす生活／高齢者との出会い／外国人との出会い／楽しむこととの出会い／私らしさとの出会い／互いに理解し合うこととの出会い／尊重するためには？／お茶大キャンパスとの出会い「お茶大キャンパス巡り」／周囲の人との考え方の違い／様々な考えの人との出会い／多様性に配慮した制服とのであい／「笑いの違い」とのであい／「笑いの違い」とのであい／成長していく中でのであい／一人一人の個性との出会い／地域の人、幸せとの出会い～出会いを紡ぐ街～／お茶大キャンパスと帰り道での「であい」／壁をなくす活動とのであい／スポーツと障がい者とのであい／劇場で出会った多様性／視覚障害者の方との出会い／車椅子の難題／年齢による障害とのであい／多様な生活の仕方との出会い／自分と違う状況・人との出会い／地域との出会い／年齢との出会い／自分らしさとの「であい」／重度障害者の立場との出会い／ドラム式洗濯機との出会い／国を越えた友達とのであい／色々な国籍とのであい／身近な多様性との出会い／社会の輪との出会い／様性に関するニュースとのであい／色々な人が求める「多様性」ってなんだろう？～ダイバーシティとの出会い～／その人に対する偏見／囁きとのであい／身近な人とのであい／他者の存在とのであい／ろう者のつながりとの出会い／認め合いとのであい／国会をみて思った新たな視点／ユーザーさんの安心／障害者を助けるものとのであい／異国文化との出会い／唯一無二の個性とのであい／新たなコミュニケーションとのであい／身近な出会い／伝わらないこととの「であい」／「1Uと多様性」とのであい／別れ／日常に潜む多様性とのであい／多様な考えとのであい／魅力的な『手話』との出会い／「社会に適應してゆく企業」とのであい／保護犬、シヨコラちゃんの愛嬌とのであい／保護犬、シヨコラちゃんの愛嬌とのであい／個性とのであい／周囲の手助けとのであい／ボランティア／語の壁との出会い／人と人との“(ココロの)距離”をもっと近くに／違いを認め合うこととの出会い／捉え方による違いとのであい／伝える気持ち伝わらない気持ちとのであい／ゲームとのであい

私が見つけた新しい「であい」のキーワードやその内容から、「多様性とのであい」の学習を通し

て、生徒が改めて、自分自身の暮らしや家族、地域の様子を見つめる様子が見られた。なかには、地域を超え、グローバルな視点での出会いをあげる生徒も見られた。「であい」をもとに気づいたことや考えたことの内容では、自分自身の意見やこれから実行したことについて具体的に整理している生徒も多く見られた。

【1418】

私が見つけた新しい「であい」

2 | 捉え方による違いとのであい

私の親戚に、車椅子には乗っていないが、小さい頃から足の長さが左右非対称の肢体不自由のおじさんがいる。そのおじさんは、私にとって運転もできるし、山も登れるしと、普通のおじさんとして映っていた。大きくなってから母からその事実を伝えられ、とても驚いた。この時、障がい者は障害者でもどう捉えるかによって変わってくるのだと思った。一人のおじさんとして捉えていたから、裏に気を使わずに接することができたのだと思う。障害があっても、同じ人間ということをとて実感した。ただ、障害があることで上手い出来ないこともある。例えば、おじさんの場合仰り向きでしか歩けない。そういう時、周りの親戚が肩を持っているのを目の当たりにして、手を差し伸べることが大切なんだと学んだ。大きくなりていったらそのおじさんは「障がい者」となる。しかし私と変わらないことの方が多く、なので対等に接し、困っていたら手を差し伸べる、この関係性を大切にしていきたいと思った。

【1407】

私が見つけた新しい「であい」

2 | 違いを認め合うこととの出会い

自分は、休日に家族と外食に行ったときに、「ほじょ犬マーク」のついたお店を見つけました。ネットで補助犬について調べてみると補助犬と一緒に「入店拒否」されることもあるという記事がありました。自分はそれを読んだときに店内の広さなどすぐには変えることの出来ない部分は仕方ないのかも知れないけれど「衛生管理上次の入店はできない」というのは改善すべきなのかなと思いました。都道府県の条例だとほとんどは「調理などを行う作業場には動物は入れてはいけない」というだけで客席に関しては触れていません。そのため補助犬が客席にいる分には問題ないのです。自分たちが当たり前にならしていることを補助犬と一緒にしている人もいますので、違いを認めあってどんな人でも遠慮せずに居られる環境が増えたら良いなと思いました。

【1303】

私が見つけた新しい「であい」

2 | 色々な国籍とのであい

いとこ「日本とハワイのハーフ/ハワイに住んでいる」

いとこ「学校にも日本とハワイのハーフ結構いるよー」

色々な国籍の人がいることが当たり前だと思うようになってきた

【1301】

私が見つけた新しい「であい」

2 | 年齢による障害とのであい

少し前、祖母と母と散歩していたら、目を離した隙に祖母が転んでしまったことがありました。しかもなんと骨折していたことが発覚。今はもうすっかり元気にりましたが、当時は申し訳なや後悔のなかで昔の祖母とのギャップを感じていました。私の祖母はとてもエネルギッシュな人で、多忙な母の代わりに幼稚園や習い事の送り迎え、掃除、さらには料理などをしてくれることも多く、母を支え私や兄妹を育ててくれました。しかし、もうそういったことは体力的にキツク、祖母はあまり外にも出なくなりました。私たちの社会では多様な年齢の人が生活しています。街を見れば、学生やサラリーマン、主婦にご老人など様々な年代の人がいます。様々な世代が活躍されているこの時代ですが、未だ若い人は反発を受けるし、体の老いによって趣味を諦める人もたくさんいます。年齢は気持ちでは解決できないし、自然の摂理なのではないかなと思います。ですが、今回のであいを受けて年齢を問わず、向かいにチャレンジすることが特別ではない世の中になっただけいいなと思いました。

3. 多様なであいから考えたこと

後期の総合的なカリキュラムで行った「多様性とのであい」の学習のまとめとしてそれぞれのグループで考えたことをスライドに整理した。スライドには、キーワードとその具体的な内容を示した。それぞれのグループがあげたキーワードは以下の通りである。

経験を活かし、好奇心を忘れず、お互いを尊重する／思いやりの心／相手のことを考える／相手のことを考える／個性、相手の立場／☆僕達のHAPPY未来にむけて☆／相手への思いやり／周りのことをよく理解し、また自分の考えを捨てない／理解・社会のものさし／見えない壁を壊そう(知る・行動する)／であい→理解→リスペクト→行動→多様な繋がり→新しいであい／ジブンゴト・ヒトゴト 知る 噂と本当 間／多様性を受け入れ尊重 積極性／お互いのことを認め合い、発信する／互いの違いを認め合う！！／理解し尊重する／コミュニケーション Enjoy／新しいものに積極的に触れていく、受け入れる、快いコミュニケーションのとり方／受け入れる・共通・ポジティブ・知ろうとする気持ち・その場にあった対応

キーワードとして「相手のことを考える」「理解し尊重する」「お互いのことを認め合い、発信する」「新しいものに積極的に触れていく、受け入れる、快いコミュニケーションのとり方」をあげたグループの考えを以下の図に示した。

●多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？ (1R②)

4 | 相手のことを考える

赤いスライドを共有して、それぞれが大事だと考えたキーワードをいくつか出し合いました。そのとき出たワードとしては「ポジティブ」「肯定的」「立場」などが挙げられました。ワードの内容を整理していると、みんな相手について考えることを大事にしているということが分かりました。広い心を持ち、お互いを認め合うことも大切だと思いました。

相手のことを考える ・知ろうとする考え方 ・努力、心持ち ・お互いを認め合う(信頼、信用) ・違いを悪い方に考えない ・立場を考える ・ポジティブに考える ・否定的な言葉を言わない ・優しい言葉を投げかける ・相手を否定しないという考え方→理解する、知ろうとする

●多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？ (1U③)

4 | **理解し尊重する。**

・お互いを理解した上で尊重しあわないといけないと思う。そうしなければ、争いが絶えなくなる。

・なぜなら、互いをけなしても、短所を言われて、傷ついていく人が増えるだけであるため。

・理解しても、尊重しない人もいる。なので、これからの世界には理解して尊重する人が沢山いないといけない。(それは我らのことである。)

・色々な視点から物事を見て多くの人と共有するコトも大切。

●多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？ (1U①)

4 | **お互いのことを認め合い、発信する。**

互いの個性を認め合い、自分の意見を積極的に発信する。そしてまた別の人にはそれを認めそれを発信する。「輪のようにつながっている社会」を作っていくことが大切！

●多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事はなんだろう？ (1U⑥)

4 | **新しいものに積極的に触れていく、受け入れる、快いコミュニケーションのとり方**

・新しいものに積極的に触れていく

→様々なことに触れてみると、自分の世界になかったことに触れていくことができる。
自分の知らないことに触れることが重要。

・受け入れる

→お互いのことを尊重して、否定せず、受け入れ合うことが大事

・快いコミュニケーションの取り方

→相手の価値観や考え方を否定せず、積極的に会話していけるといい

図に示したスライドにまとめられた内容の他にも、どれもよりよい未来を創造する姿につながる主体的な内容が見られ、学習を通して生徒自身が考えを深めていった様子が見え、うかがえた。

III 考察

それぞれのグループ考えた多様な「ヒト・モノ・コト」とよりよくつながるために大切な事のキーワードとして、「相手のことを考える」「理解し尊重する」「お互いのことを認め合い、発信する」「新しいものに積極的に触れていく、受け入れる、快いコミュニケーションのとり方」等があげられた。総合カリキュラムでの「多様性とのあい」の学習を通して、生徒自身が改めて自分自身の身近な暮らしを見つめたり、地域や社会に目を向け、自分ができることを前向きに考え、多様性についての学びを深める様子が見られた。

第一学年での学習を踏まえ、第二学年では、重点目標である「見つめる:つながりを深める・強める」を意識させ、「トレードオフ(二律背反)」の概念を生徒に示し、一方を追求するともう一方を犠牲にしなければならないために起きる問題にも目を向けさせながら「自然との共生」「ダイバーシティ&インクルージョン」などをテーマとしながら共生について考えさせていきたい。

参考文献

・お茶の水女子大学附属中学校(2023)多様性とのあい～ちがいにリスペクト～(コンピテンシー育成のための授業研究). <https://kyozai-db.fz.ocha.ac.jp/search/detail/728>(2023/5/8参照)